

# 第3回外国人児童生徒支援連絡会議

## 拠点校取り組み報告 ～子供に寄り添った日本語指導～

2022年 2月15日(火)

中央市立田富小学校

# 報告内容

1. 外国籍児童の困り感
2. 日本語指導の充実に向けて
3. 職場の声（学級担任のアンケートから）
4. 田富小における外国籍児童へのステップ

# 1. 外国籍児童の困り感

先生や友達が何を言っているかわからない。

給食が食べられない。

学校での当たり前が全然ちがう。

日本での生活は、思っていたものとちがう。

おしゃべりができても、相手の言っていることが分からない。

習っていない言葉が授業で出てくる。

なんで、日本語を覚えなくちゃいけないの。

文章の量も漢字もいっぱい読めない。でも……



## 2. 日本語指導の充実に向けて

覚えることがいっぱいな日本語を



ひらがな・カタカナ  
はゲーム感覚で！



漢字や言葉も  
フラッシュカードを  
使って学習

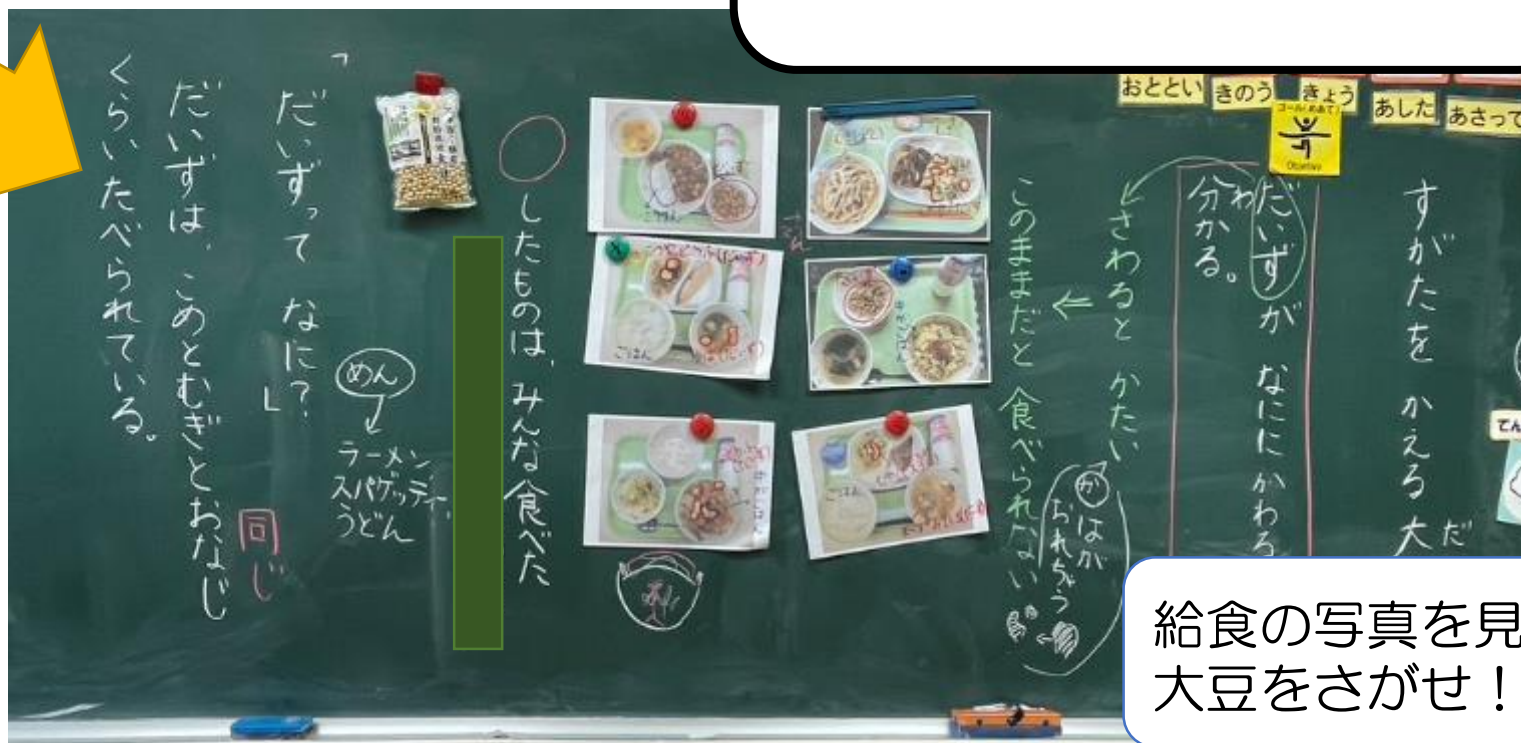
# 「なに？」「したい！」からはじまる授業を (3年「すがたをかえる大豆 食べ物のみみつ、教えます」より)



だいず？  
たべてなーい

大豆って米と麦と同じくらい食べられているって書いてあるけど、本当なの？

なにこれ、だいず？



給食の写真を見て、大豆をさがせ！



きなこ、  
なに？



しょうゆ、  
みそも  
なに？



いり豆をこなにして、  
きなこづくり

しょうぱい、  
なに？！

しょうぱい～



自分で作ったものだから、  
初めて食べるものも  
食べられる！



しょうゆとみそは難しくて  
作れなかったけど・・・  
試食をしてみた！



とうふ、つくりたーい。  
でも、とうふすきじゃなーい。たべなーい。

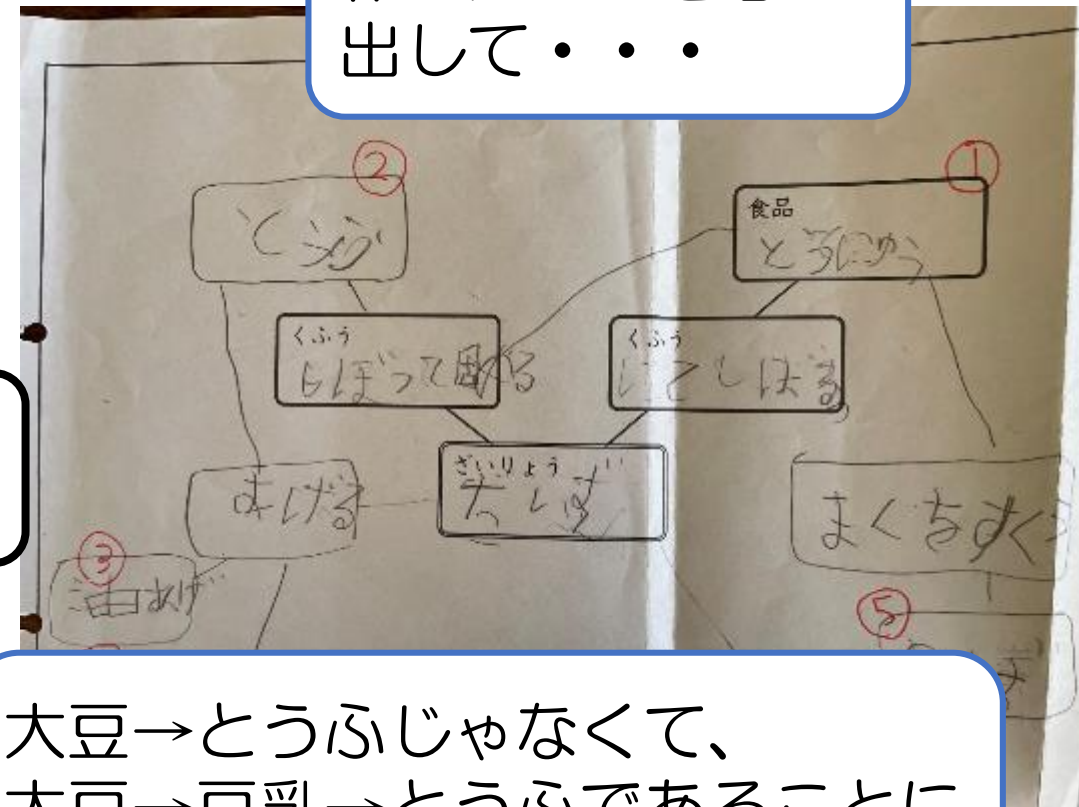


じゃ、作ってみよう！



豆乳から豆腐になっ  
ていくことに感動！

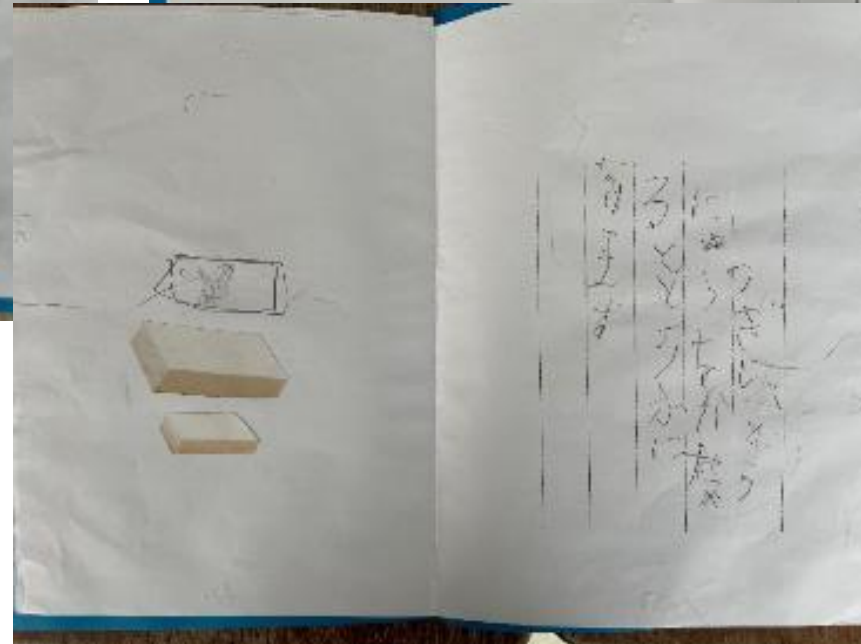
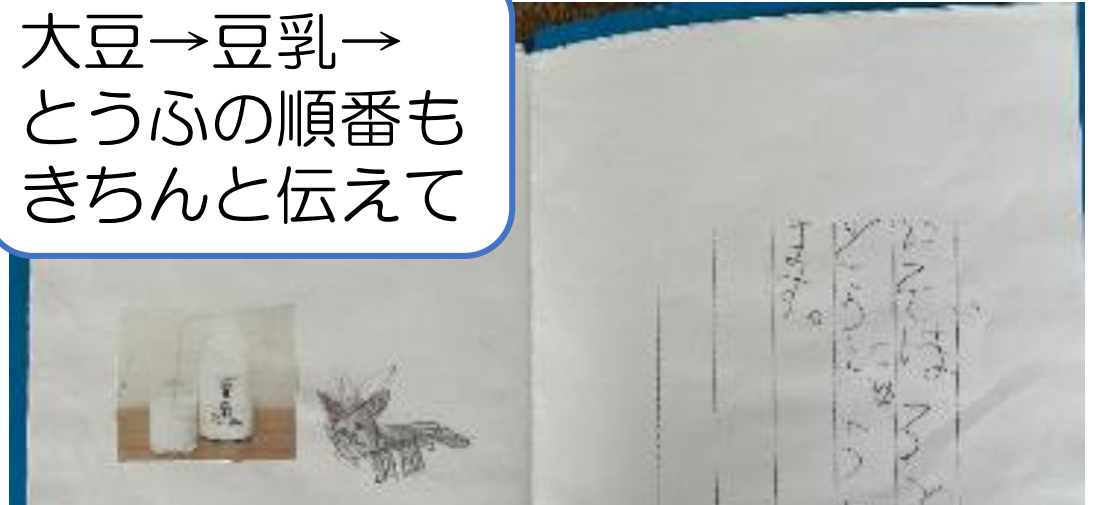
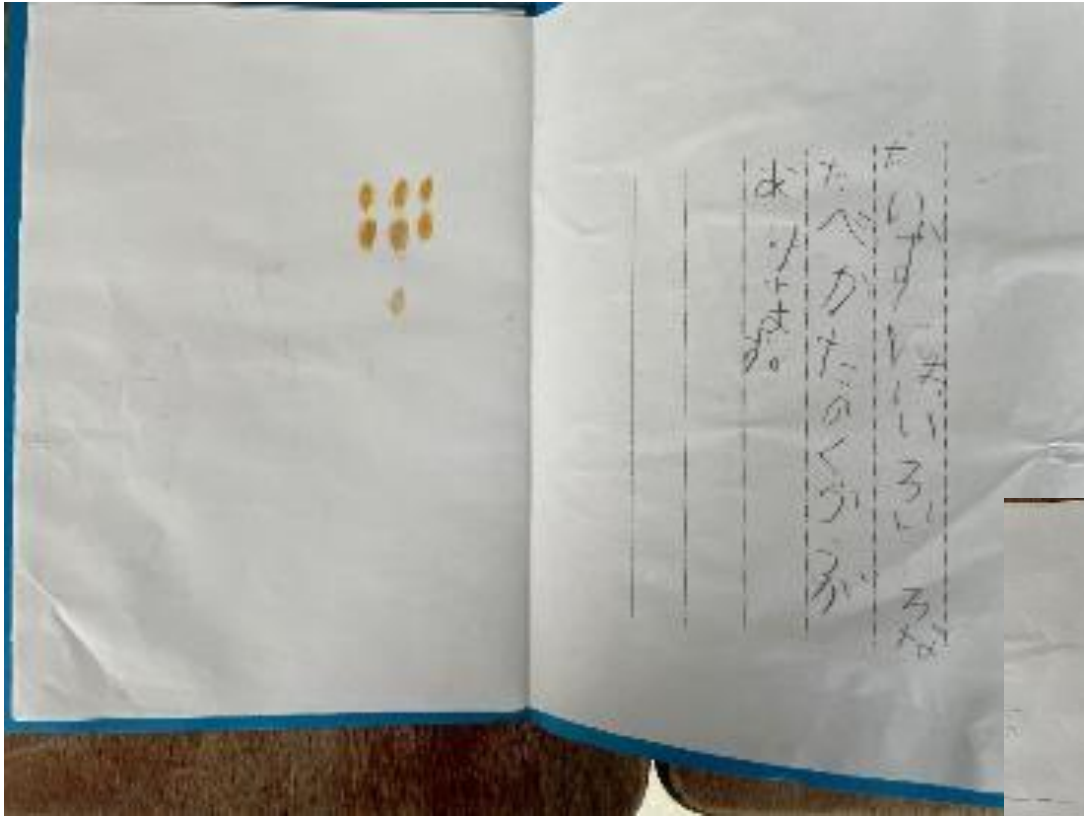
作ったことを思い  
出して・・・



大豆→とうふじゃなくて、  
大豆→豆乳→とうふであることに  
発見！

わかったことをみんなに伝えたい！

大豆→豆乳→  
とうふの順番も  
きちんと伝えて

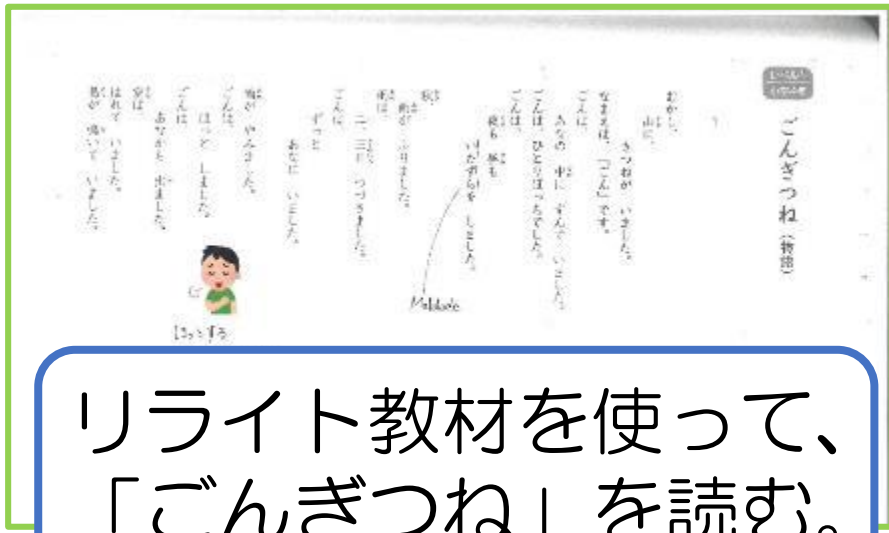


かがく絵本風にして、  
勉強したことをまとめる！

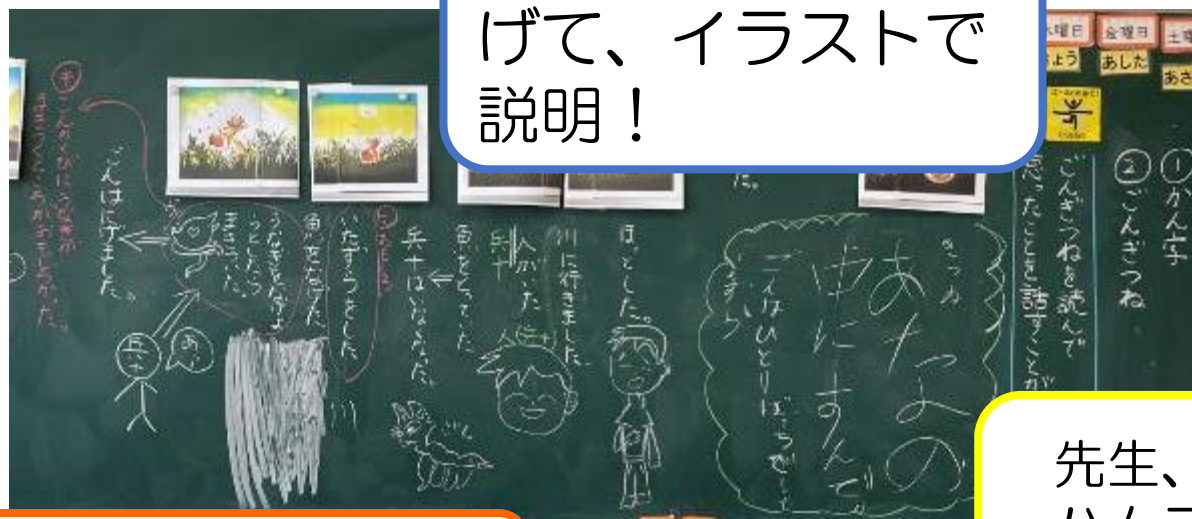


# 国語・物語の楽しさのきっかけづくりを (4年「ごんぎつね」より)

自分の経験とつな  
げて、イラストで  
説明！

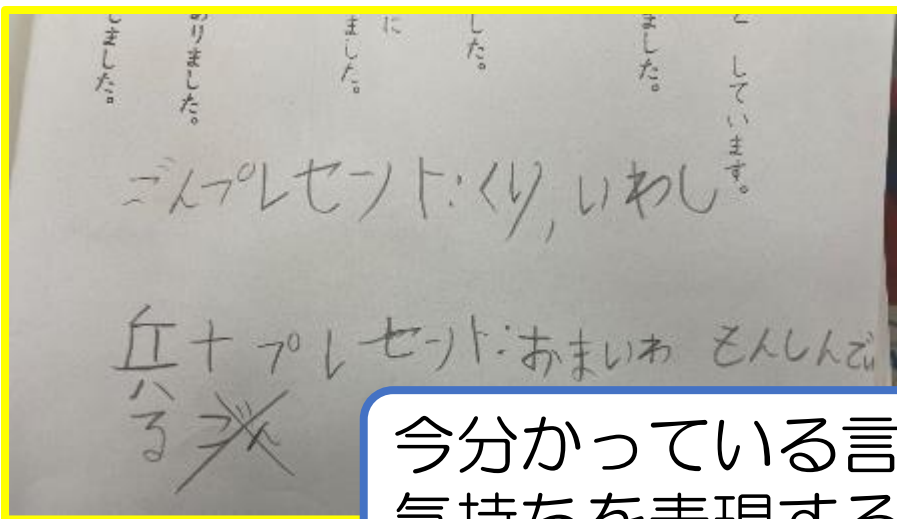


リライト教材を使って、  
「ごんぎつね」を読む。



ごんの「いやだ」は  
むかむかマーク！

先生、ぼくの  
ハムスター。  
ごん、にてます



今分かっている言葉で  
気持ちを表現する！



「ごんぎつね」から  
ぎつねが出てくるお話を読む活動へ

ぎつねが出てくる本をさがせ！

本の名前	作者（本を書いた人）
ちょっとまって、ぎつねさん	カトリーン・シェーラー
むけくらべ	松谷みよ子
こんとあき	林明子
ごんぎつねコンとごだぬきボン	松野正子
ぎつねのおきゃくさま	あまんきみこ
ぎつねじょうぼう	長谷川洪子
きたきつねのゆめ	手嶋重三郎
ともだちや	内田麟太郎
ぎつねとねずみ	ピアンキ
花いっぱいになあれ	松谷みよ子
こんたのおつかい	田中友佳子
しちどぎつね	たじまゆきひこ
ぎつねのでんわボックス	戸田和代
そらいろのたね	なががわりえこ
キツネ	マーガレット・ワイルド
ぎつねのホイティ	シビル・ウェッタシンハ
ぎつねとタヌキのばけばけ屋	木暮正夫
きいろいばけつ	もりやまみやこ
キツネのまいもん屋	富安陽子



こんとあき・・・  
「か」だ！

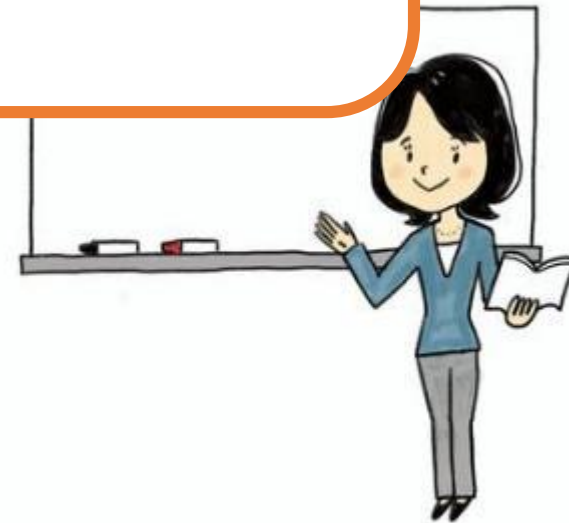
1冊えらんで、紹介文を  
書いてみよう！

# わかる・できるを大切にした 授業づくりを目指して

日本語を覚えることに対しても、  
日本で生活することに対しても、  
さまざまな思いを抱えている児童たち



児童一人一人に  
合った指導を探し、学校全体で  
見ていくことが  
大切



# 3. 職場の声

## 取り出しでの日本語指導について



個別に見てくれる時間が増えてありがたい。

取り出しの指導を受けることで、着実に日本語の力をつけている。

細かいニュアンス等、全体指導で難しい所を補っている。

児童の学習習慣が身についてきている。

その子に合った指導をしてくれてありがたい。

子どもたちにとってほっとできる場所になっていていいと思う。

取り出しをしてから、教室での発言が増えた。

日常生活の支援まで、指導してくれている。

# 3. 職場の声

## クラスへの入り込み指導について



入り込みの時間も増えて、ありがたい。

安心してクラスでも学習できていると思う。

国語以外でも、難しい課題に声をかけてくれて、助かっている。

取り出しと入り込みの両方の指導が欠かせないと感じている。

全体指導で理解しにくいことをフォローしてくれるので、とても良い。

外国籍児童の学力の保障となっている。

担任の指示だけでは分からないところを補填してくれる。

通訳ができる方だと、さらにありがたい。

# 4. 田富小における外国籍児童へのステップ

## 受入れ時の 対応

- 受け入れ時に確認する事項(資料①)をもとに、受け入れを行う。
- 学級担任の先生には、学年だより・学年で必要な持ち物・集金(特に積立金)・教材関係を確認する。
- 転入生には、来日状況によって簡単な日本語のプリント(ひらがな・カタカナなど)・算数のプリントをしてもらう。
- 日本語教室に入室するか、保護者・児童に確認する。

## 日本語力の 把握

- 在籍学級の様子(担任の指示がわかるか、授業の内容が理解できているか)
- 受け入れ時に確認したプリントの結果。

## 指導目標の 設定

- 児童の日本語力(話す・読む・書く・聞くの項目)、学習段階に合わせて、JSL評価参照枠のステージを参考にして指導目標を設定する。(在籍学級の担任と日本語指導担当の話し合いで決める)

### 指導時数の検討

- 日本語が全く話せない児童、サバイバル日本語は分かっていても学習は難しい児童（DLAのステージ4未満）を中心に取り出しを決めていく。
- 学級の時間割と日本語指導担当の時間割を見て、毎週予定を確認して時間割を作成する。

### 指導計画の作成

- 日本語指導が必要な児童の個別の指導計画を在籍学級の担任が4月又は転入時に作成していく。（日本語力・学習段階・日本語学習内容は日本語指導担当が記入）
- 後期(8月中)に指導計画を見直し、後期分の指導計画を在籍学級の担任が作成。

### 指導成果の検証

- 2学期の後半から高学年から低学年の順番にDLAを行い、日本語力を検査。「話す」「読む」「書く」「聞く」の4項目をすることが望ましいが、時間がかかるので「話す」「読む」「聞く」を実施している。
- サバイバル日本語が十分に分かっていない児童はDLAの検査ができないため、普段の日本語教室・在籍学級の様子をもとに検証を行う。

### 次年度の指導目標の設定

- DLAや普段の様子をもとに学習段階を設定し、JSL評価参照枠のステージを参考に次年度の指導目標を決めていく。

日本語指導のプログラム

「日本語と教科の統合」プログラム

1 単元名 「こまを楽しむ」を読んで、しょうかいしたいこまについて、伝え合おう

[光村図書 3年(上)]

2 児童の実態

Aさん：3年生。母語はポルトガル語。2年生の時にサバイバル日本語を学習し、現在は日本語の基礎・技能別日本語を学習している。ひらがな・カタカナ清音が読める程度である。

Bさん：3年生。母語はスペイン語。2年生の時にサバイバル日本語を学習し、現在は日本語の基礎・技能別日本語を学習している。ひらがな・カタカナ清音・濁音・半濁音と半分程度の1年生の漢字が読むことができる。

3 指導の形態

日本語教室で取り出し、個別・グループ指導を行う。

4 単元の目標

[教科の目標]

- ・段落の役割について、理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ
- ・全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。[思考力, 判断力, 表現力等] C (1)ウ

[日本語の目標]

- ・具体的な目的や相手を明確にし、どうしたら伝えたいことが伝わるか(「何を」「どう」書けば相手に伝わるか)を考えて書く。 [JSLカリキュラム「国語科」より]

5 指導計画

	学習活動	支援の工夫
1	こまで遊ぶことを体験したり、こまの写真や映像を見たりして、こまについて知る。 色がわりごま、鳴りごま、さか立ちごまの共通点・相違点を見つける。	・こまで遊ぶことを体験することで、こまとは何か、こまの楽しさを感じさせる。 ・写真や映像を見せて、視覚的にもものと名前を一致させる。(iPadなど)
2	紹介したいこまを選ぶ。そのときに理由があれば聞き取る。 本文を通読し、文章構成を理解する。 「初め」の問いを確認する。	・本文で分からない言葉は、母語を伝えて日本語とつなげる。(ポケトーク、グーグル翻訳) ・教科書本文よりも簡単にした文章や読みやすい長さにする。(リライト教材の活用)



3	「中」を、「答え」に着目して読む。	・教科書本文よりも簡単にした文章や読みやすい長さにする。(リライト教材の活用)
4	「終わり」に書かれているまとめに着目して読む。	・教科書本文よりも簡単にした文章や読みやすい長さにする。(リライト教材の活用)
5 本時	学習したこまの中から、紹介したいこまを選び、理由を合わせて書く。	・しょうかい文を書きやすいように、「①こまの種類」+「②楽しみ方+理由」のパターンを教える。(ワークプリント) ・「①+②」のパターン=主張+理由となり、自分の考えを伝える時の汎用性のある知識として身に付けられるようにする。
6	他の事例に応用し、相手の伝え方について習熟する。 例) 好きな教科について、伝える内容を書く。 好きな給食について、伝える内容を書く。	・好きなものを書けるように、こまのしょうかい文のような文のパターンを考えさせる。 (ワークプリント)

## 6 本時の学習

(1) 目標 しょうかいしたいときの伝え方を知り、しょうかいしたいこまについて伝えることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入	1. 「こまを楽しむ」で勉強したこまの名前と遊び方を復習する。 2. 本時のゴールを確認する。 しょうかいしたいこまについて、つたえることができる。	・写真を見せて、名前と遊び方を一致させる。
展開	3. 紹介したいこまを選び、紹介文を書く。 4. 紹介したいこまについて、友だち同士で聞き合う。	・紹介文のパターンについて、ワークプリントを使って確認し、紹介文を書く。 「①こまの種類」+「②楽しみ方+理由」のパターンで行う。 ・②の楽しみ方が分からない時は導入で確認したことばを見るように促す。 ・日本語で理由が言えない時は、翻訳機能を使って子どもの言葉を聞き出す。 ・発表をした後は、友だち同士で思ったことを発表し合う。

ま と め	5. 次の時間にやることを確認する。 クラスの友達にどのように発表するかを 理解する。	
-------------	---	--

## 7 成果と課題

### [成果]

本単元において、対象児童は、自分の学年の読み物教材を初めて学習した。ひらがな・カタカナを覚える段階から、本単元の学習を通して、書かれている内容を推測したり、興味を持ったりする姿が見られた。さらに、「国語の学習をがんばろう。」という意欲も見られるようになり、自分で漢字を覚えようと努力するようになったり、進んで本を読もうとしたりしていた。今回、教科書の文章をリライト教材に変えるだけでなく、体験活動を取り入れたり、ICTを活用したりして、理解につながるように工夫した。その結果、児童は具体的なイメージを基に、学習を進めることができ、内容理解に大きく効果があった。

### [課題]

今回の工夫だけでは、学習内容を十分に理解できない児童もいた。文章を読むことは、外国人児童にとって、とても難しいことである。友達と共に学び合う機会を大切に、日本語と教科書を統合したカリキュラムを、今後も進めていけるよう、教材研究を行っていきたい。

## 本単元で使用したワークシート

8. ワークシート

しょうかい文(こま編)

名前(なまえ)

ぼく・わたしは、くであそびたいと思いました。

このこまは、くを楽しむことができるこまです。

なぜかというと、くだからです。

えらんだ理由(りゆう)	たのしみ方(かた)	こまのしゅるい
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> <div style="width: 20px;"> </div> </div>

日本語指導のプログラム  
「日本語と教科の統合」プログラム

1 単元名 物語を読んで、思ったことを伝えよう

2 児童の実態

Aさん・Bさん

母語はポルトガル語。1学期にサバイバル日本語を学習した。ブラジル人学校でひらがな・カタカナを学習していて、文を読んだり書いたりできる。1年生の漢字もある程度理解できている。

3 指導の形態

日本語教室で取り出し、個別・グループ指導を行う。

4 単元の目標

[教科の目標]

- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人独りの感じ方などに違いがあることに気づくことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1)カ
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1)エ
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1)オ
- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1)オ

[日本語の目標]

- ・自分から進んで本が読める。
- ・登場人物の心情や、考え方を表す言葉がわかる。
- ・読み取った内容について、自分の考えを持てる。

5 指導計画

	学習活動	支援の工夫
1	・挿絵を見て、どういった話になるか想像する。	・教科書に載っていない挿絵を使って、お話の内容を挿絵からも理解できるようにする。 ・予想される分からない言葉は、写真や実物を使
2	・1の場面を読み、登場人物について確認する。 (ごんは、 <input type="text"/> です。兵十は、 <input type="text"/> で	

	<p>す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんがしたこと・気持ちをまとめることができる。 (ごんは、<input type="text"/>しました。ごんは、<input type="text"/>と思いました。)</li> <li>・面白かったことや気になったことなどを伝える。</li> </ul>	<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リライト教材を使って、児童にとって読みやすくする。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2の場面を読み、ごんがしたこと・気持ちをまとめることができる。 (ごんは、<input type="text"/>しました。ごんは、<input type="text"/>と思いました。)</li> <li>・面白かったことや気になったことなどを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に載っていない挿絵を使って、お話の内容を挿絵からも理解できるようにする。</li> <li>・予想される分からない言葉は、写真や実物を使う。</li> <li>・リライト教材を使って、児童にとって読みやすくする。</li> </ul>
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3の場面を読み、ごんがしたこと・気持ちをまとめることができる。 (ごんは、<input type="text"/>しました。ごんは、<input type="text"/>と思いました。)</li> <li>・面白かったことや気になったことなどを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に載っていない挿絵を使って、お話の内容を挿絵からも理解できるようにする。</li> <li>・予想される分からない言葉は、写真や実物を使う。</li> <li>・リライト教材を使って、児童にとって読みやすくする。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4の場面を読み、ごんがしたこと・気持ちをまとめることができる。 (ごんは、<input type="text"/>しました。ごんは、<input type="text"/>と思いました。)</li> <li>・面白かったことや気になったことなどを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に載っていない挿絵を使って、お話の内容を挿絵からも理解できるようにする。</li> <li>・予想される分からない言葉は、写真や実物を使う。</li> <li>・リライト教材を使って、児童にとって読みやすくする。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5の場面を読み、ごんがしたこと・気持ちをまとめることができる。 (ごんは、<input type="text"/>しました。ごんは、<input type="text"/>と思いました。)</li> <li>・面白かったことや気になったことなどを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に載っていない挿絵を使って、お話の内容を挿絵からも理解できるようにする。</li> <li>・予想される分からない言葉は、写真や実物を使う。</li> <li>・リライト教材を使って、児童にとって読みやすくする。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6の場面を読み、ごんがしたこと・気持ちをまとめることができる。 (ごんは、<input type="text"/>しました。ごんは、<input type="text"/>と思いました。)</li> <li>・面白かったことや気になったことなどを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に載っていない挿絵を使って、お話の内容を挿絵からも理解できるようにする。</li> <li>・予想される分からない言葉は、写真や実物を使う。</li> <li>・リライト教材を使って、児童にとって読みやすくする。</li> </ul>

8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごんぎつね」を読んで、思ったことを伝える。 (ぼくは、この話を読んで [ ] と思いました。理由は、 [ ] からです。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を伝えるパターン (ぼくは、この話を読んで [ ] と思いました。理由は、 [ ] からです。) を教える。(ワークシート)</li> <li>・(ぼくは、この話を読んで [ ] と思いました。理由は、 [ ] からです。) 主張+理由となり、自分の考えを伝える時の汎用性のある知識として身に付けられるようにする。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館できつねが出てくる本を選び、思ったことを伝える。 (ぼくは、この話を読んで [ ] と思いました。理由は、 [ ] からです。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を伝えるパターンを生かして、思ったことが伝えられるようにする。</li> <li>・ごんぎつねをきっかけに様々な本に出会えるように多様な本を用意する。</li> </ul>

## 6 本時の学習

(1) 目標 登場人物の心情や、考え方を表す言葉がわかり、読み取った内容について、自分の考えを持つことができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入	1. 「ごんぎつね」の今までの場面の内容を復習する。 2. 本時のゴールを確認する。 3 の場面を読んで、自分が思ったことを話すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない言葉があったら、その時に写真などの資料を使って確認する。</li> <li>・児童の言葉を聞き取りながら、物語の理解度を確認していく。</li> </ul>
展開	3. 本文を音読する。 4. 分からない言葉を確認する。 ○予想される分からない言葉 ひとりぼっち・いわし・くり・ほっぺた・ひとりごと・どろぼう・まつたけ 5. ごんがしたこと・思ったことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リライト教材で音読を行う。</li> <li>・分からない言葉として予想されるものは、実物や写真などを用意したり、ポケトーク・翻訳アプリで教えたりする。</li> <li>・いわしを渡したときとくりを渡したときのごんの気持ちに気づかせるようにする。</li> </ul>
まとめ	6. 3 の場面を読んで、自分が思ったことを話す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったことが話せない場合は、「面白かったところは？」など声掛けをして、小さいことでも話すことができるようにする。</li> </ul>

## 7 成果と課題

### [成果]

日本語の学習を始めてまだ半年の段階で、日本語の物語を読むことは児童にとって難しいことであったが、リライト教材を使ったり、絵本の挿絵を使ったりしたことで、最後の場面まで楽しく読み進めることができた。特に、自身の体験を交えて、登場人物の心情を考えることで、児童と教材との関わりも深まり、物語の内容理解につながった。また、今回は「ごんぎつね」から、キツネが出てくる物語を読むという読書単元につなげた。今までは図鑑や母語の本ばかり読んでいた児童が、キツネが出てくる絵本や物語中心にいろいろな本を読もうとする姿が見られた。

### [課題]

説明文は内容によって段落を省略できるが、物語はそれが難しく、長い文章を読むことは、児童にとって大変そうだった。今回の工夫だけではなく、映像などで代用して読んでいくなど、児童の実態に応じた指導していく必要がある。

